

まつかわど 松河戸遺跡

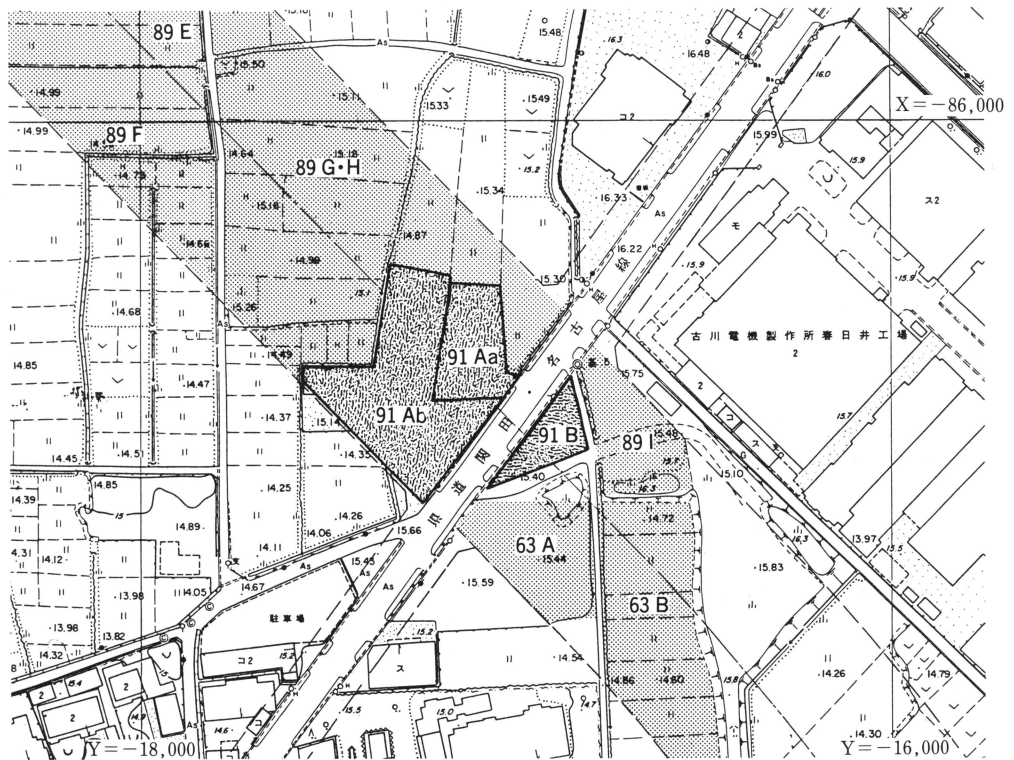
調査の経過

松河戸遺跡は春日井市南東部、庄内川右岸の沖積地に立地する。この一帯は古代条里制の残存する地域と推定されており、名古屋環状2号線建設に伴い条里制遺構究明を目的として昭和62年度から始まった発掘調査は、5年目となる今年度を以て終了した。これまでの調査によって本遺跡を、Ⅰ期：縄文時代早期～後期、Ⅱ期：縄文時代晩期後半～弥生時代前期、Ⅲ期：古墳時代、Ⅳ期：中世、Ⅴ期：近世の5時期に区分している。

調査の概要

今年度の調査は県道関田・名古屋線を挟んで西に91A区、東に91B区の2調査区が設定されたが、91A区は都合上2分割（91A a区、91A b区）した（第1図）。

調査は上下2面で行った（第2図）。上面はⅤ期で、水田遺構を主とするが、攪乱が激しくA a区を除き検出できなかった。B区では溝1条（SD03）を検出している。下面はⅣ期の屋敷跡を検出した。SA01を屋敷地南限としその南に井戸（SK02）を配置し、さら



第1図 調査区位置図 1:2000

にその南では溝（SD02）により区画されている。12世紀後半～13世紀前半に比定される。その他、本遺跡の時期区分に該当しない遺構としてSD01（7～11世紀 仮にⅢ'期とする）がある。埋土に粗砂層を数枚持つことから水路と考えられる。

まとめ

名古屋環状2号線建設工事が調査区両脇まで迫り、時に競合する場合もあり、決して満足のいく調査ができたとは言いがたい。また、遺構面の攪乱が激しく、屋敷跡の様相が掴みにくくなっていたことが残念でならない。本遺跡の調査は67,000m²を越える調査面積の全てを終了し多くの成果を上げた。今後の整理報告に期待したい。（岡本直久）



第2図 遺構配置図